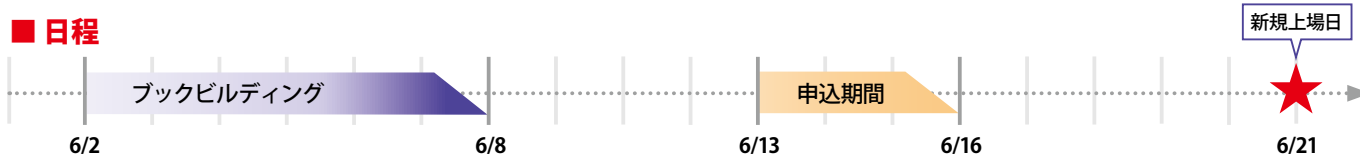


IPO銘柄 AWSホールディングス (3937・マザーズ)

コード	投資単位	公開株式数	仮条件 (上限 PER)	主幹事証券
3937	100株	公募: 11.00万株 売出: 0.00万株 (OA1.65万株)	2,290円~2,490円 (19.5倍)	SBI証券



日本・フィリピンを中心にソフトウェア開発を展開

■ 事業内容

日本、フィリピンを中心にソフトウェア開発を行うグローバル事業が主力。グローバル事業はグローバル部門とエンタープライズソリューション部門に大別され、グローバル部門はITアウトソーシングのほか、ビジネスアプリケーションおよび組込みソフトの設計、開発などの支援を手掛けている。国内外の大手電機メーカー、車載機器メーカーを主要顧客とし、主にフィリピン子会社が各開発業務を行う。エンタープライズソリューション部門は、主に国内外の金融系を中心とした開発案件の企画、営業などを展開。もうひとつのメディカル事業は医療情報システム用ソフトの開発・販売などを手掛けている。16年3月期第3四半期累計（15年4～12月）の売上高構成比はグローバル事業が65.6%、メディカル事業が33.2%、その他が1.2%。

■ 特徴

フィリピンは、ASEAN（東南アジア諸国連合）の新興国として年6%程度の経済成長を続けており、中国リスクに対応するための「中国+1（チャイナ・プラスワン）」の候補地の1つとしても注目度は高い。IT業界の競争激化、国際化という業界環境の流れの中で、英語、日本語のバイリンガルな環境で低コスト、高品質を同時に実現している点が強み。

アナリストコメント

■ 定量分析

17年3月期の連結経常利益は前期比16.2%増の2億7,000万円を計画する。グローバル事業のグローバル部門はフィリピンでオフショア開発案件が好調。米国市場開拓に向けた戦略的マーケティング活動に尽力。メディカル事業ではユーザー囲い込みに向けた施策に注力している。

■ 定性分析

売上高は右肩上がりではあるが利益面に安定感がなく、14年3月期は経常赤字。注目を集めにくい業態の案件ではあるが、大株主に経済界の著名人が多くいることが話題となっている。人工知能関連ビジネスなどへの注力も掲げているが、手掛かり材料となるかは未知数。

■ 需給状況

仮条件の上限で試算した市場からの吸収金額は3億円程度。非常に小粒な案件で、上場初日は需給主導の展開となりそうだ。人気化が想定される、M&A（企業の合併・買収）仲介のストライクとの同日上場ではあるが、初値買い資金分散の影響を懸念するような規模ではない。
(小泉健太)

■ 類似企業

AWSホールディングス (3937・マザーズ)	予想PER19.5倍 (仮条件上限)
日本システム技術 (4323・東証2部)	予想PER10.8倍
キーウェアソリューションズ (3799・東証2部)	予想PER10.8倍

■ 引受証券

SBI証券、SMBC日興証券、エイチ・エス証券、東洋証券、日本アジア証券

業績・財務指標

	売上高 (百万円)	前年比 (%)	経常利益 (百万円)	前年比 (%)	純利益 (百万円)	前年比 (%)	EPS (円)	1株あたり 年間配当金(円)
15年3月期(実績)	2,589	8.1	128	黒転	32	黒転	28.6	—
16年3月期(実績)	2,926	13.0	232	81.3	-4	赤転	-3.9	—
17年3月期(会社予想)	3,434	17.3	270	16.2	167	黒転	127.9	—

※ 16年3月に株式分割(1株→10株)を実施。15年3月期のEPSは遡及修正

	発行済み 株式総数(株)	総資産 (百万円)	純資産 (百万円)	資本金 (百万円)	BPS (円)	自己資本比率 (%)	自己資本当期 純利益率(%)
14年3月期	102,016	1,803	515	435	505.2	28.6	—
15年3月期	122,016	2,099	800	535	656.4	38.1	4.9

※ 14年3月期および15年3月期のBPSは遡及修正

大株主上位(上場前)

	氏名または名称	所有株式数(株)	所有割合(%)
1	青木 正之	606,130	45.11
2	松下 順一	101,500	7.55
3	小西 彰	98,000	7.29
4	窪田 一貴	91,710	6.83
5	息栖 邦夫	78,000	5.81
6	山路 敏之	67,450	5.02
7	小船 賢一	53,200	3.96
8	菊池 裕二	37,500	2.79
9	高木 英治	32,170	2.39
10	畑崎 重雄	24,610	1.83

経営陣

役職	氏名
代表取締役社長	青木 正之
取締役副社長	小西 彰
取締役 メディカル事業本部長	荻原 裕之
取締役 グローバル事業本部長 兼 営業部長 兼 ソリューション開 発部長 兼 業務部長	石川 正史
取締役 エンタープライズソリュー ション事業本部長 兼 営業部長 兼 ソリューション開発部長	濱 良夫
取締役	森川 亮
常勤監査役	松本 一喜
監査役	内野 正昭
監査役	大下 泰高

モーニングスターIPOレポートの読み方

特 徴

モーニングスター IPO^(※1) レポートでは、日本国内の取引所に新たに上場する銘柄を取り上げ、モーニングスターが位置する中立的な第三者としての立場から IPO に関する情報を提供いたします。ブックビルディング^(※2) が始まる前にレポートを提供することにより、IPO への参加を検討している投資家にとって有用な情報となるでしょう。モーニングスター IPO レポートには、企業名・コード・公開株式数など基本情報やブックビルディング期間・申込期間など IPO 日程のほか、モーニングスターの担当アナリストによるコメントを掲載いたします。

※1 IPO (Initial Public Offering)：新規株式公開。

※2 ブックビルディング：引受証券会社が機関投資家などの意見をもとに決定した仮条件を投資家に提示し、投資家の需要がどの程度あるかを把握することによって、マーケットの動向に即した公開価格を決定する方法。一般的に需要積み上げ方式と呼ばれる。

項目説明

■ 事業内容

新規上場する企業の事業概略を解説します。主要製品やサービスのほか、セグメント別の売上高構成比率などを記載。新規上場時の事業の状況や、先行きの見通しなども交えて分かり易くお伝えいたします。

■ 特徴

新規上場企業の設立経緯から現在の事業環境、ビジネスモデルや事業の強み、顧客動向、業績内容、海外展開、経営陣など様々な観点から特筆すべきエッセンスのみを抽出し、掲載いたします。

■ 定量分析

新規上場時に開示される前期、前々期の業績実績と今期の会社計画を用い、業績の成長性や収益性、財務安定性の面から新規上場銘柄を分析いたします。

■ 定性分析

新規上場銘柄が持つ事業の特性や事業環境、セクター動向などを踏まえ、定性的な評価をするほか、足元の株式市場の状況などを考慮して、マーケットから見た新規上場銘柄に対する見方なども掲載します。

■ 需給状況

公募・売り出しの株数と仮条件をふまえ、市場からの吸収金額を試算するほか、足元の新興市場の動向、類似企業の株価推移、ベンチャーキャピタルによる保有株放出の可能性なども考慮し、上場初日の需給状況を予想いたします。

■ 類似企業

新規上場企業と同じ業種に属する競合他社や類似企業を取り上げて PER を併記いたします。PER の水準は初値の参考指標として有効です。